

課題1 『郷土秩父の里山に抱かれた「里の森」の火葬場』について

秩父の里山と共生し「里の森」に静かに佇む環境と調和した火葬場を提案します。

- ・儀式の流れと遺族・会葬者の気持ちを大切に、各々の場面にふさわしく、記憶に残る雰囲気づくりを行います。
- ・秩父地方の葬送習慣に配慮し、午前中の時間帯集中や多くの会葬者にも柔軟に対応するゆとりある施設計画とします。
- ・地場産木材や銘仙などを積極的に活用し、厳粛さの中にふるさとを感じ、秩父の記憶と重なる空間を演出します。

課題2 敷地利用計画について

緑豊かな里山の風景をそのままに、地形を活かした敷地利用計画を提案します。

- ・山並みに合わせた勾配のある大屋根により、火葬炉施設の高さや火葬炉排気筒が意識されない、秩父の里山景観に調和した計画とします。
- ・コナラの既存林に大きく接する配置とし、施設内外に里山を感じられる「里の森」に包まれた施設計画とします。
- ・光、騒音、臭気など細部にわたり生活環境に十分配慮した施設計画とします。



大庇で迎えるゆとりあるエントランスのイメージ

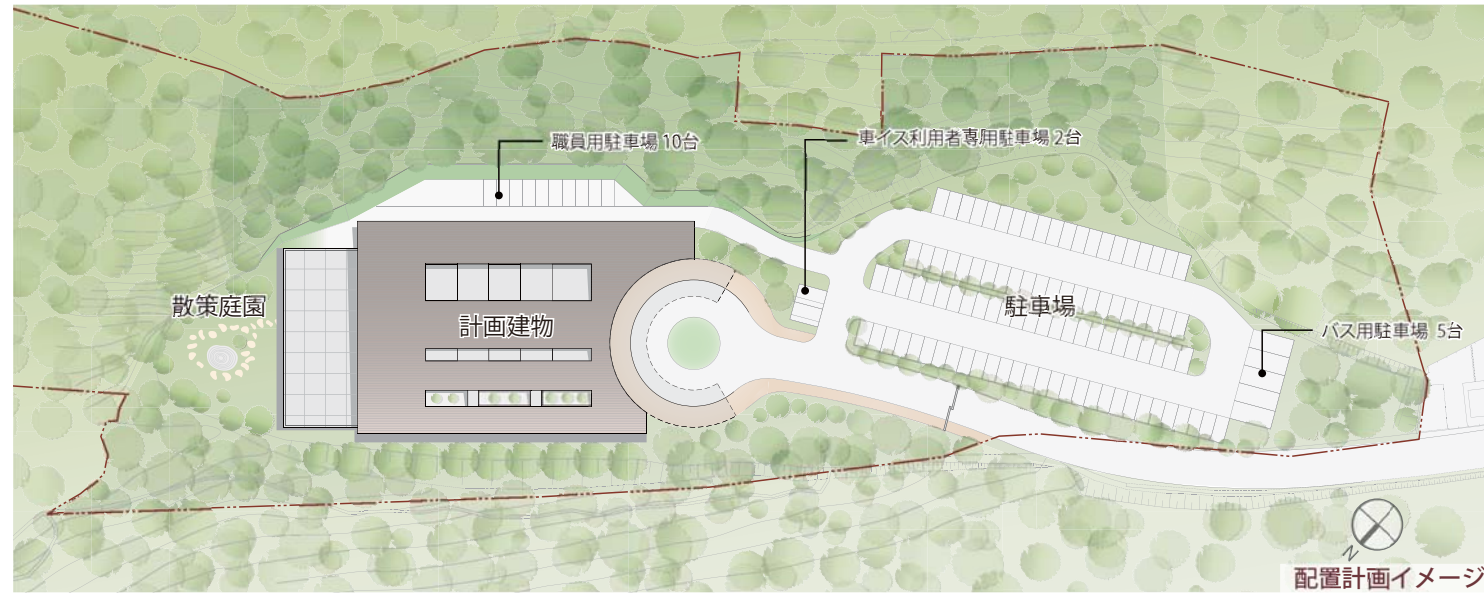


独立性が高く厳粛な告別室・収骨室のイメージ

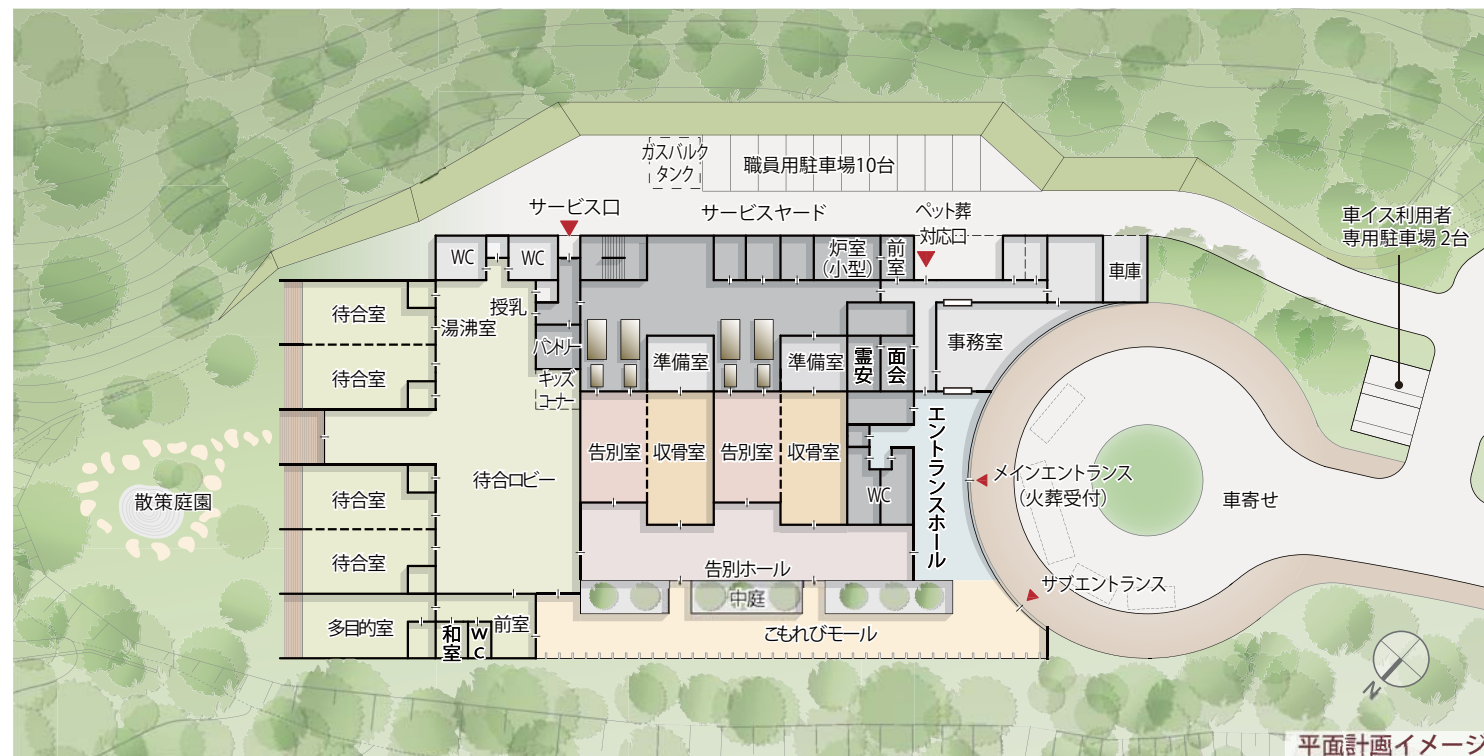
秩父の「里の森」に静かに佇む新火葬場を提案します。



施設イメージ



配置計画イメージ



平面計画イメージ

課題3 最大火葬件数時の施設の動線計画と諸室構成について

火葬場の施設特性に配慮し誰もが静かに利用できる葬送環境を提案します。

- ・他会葬者との動線交錯のない円滑でコンパクトな動線とし、全ての利用者にわかりやすく合理的な施設とします。
- ・火葬集中時にゆとりをもって受け入れが可能で、独立性が高く遺族・会葬者が心ゆくまで故人を見送ることができる計画とします。
- ・バリアフリー対策に加えキッズコーナーや授乳室を設け、誰もが安心して快適に利用できる施設計画とします。

課題4 施設運営計画について

施設特性に応じた細やかな配慮で運営コストを最小限にします。

- ・更新が容易で耐久性の高い長寿命な建築とし、施設が長期間休場することなく継続利用できる計画とします。
- ・施設利用者の安全を第一に、既存施設から新火葬場へのスムーズな移行計画とします。
- ・イニシャルコストや、運用段階まで見据えたランニングコストの低減を図り、トータルコストの削減を目指します。



あかるく温もりある待合ロビーのイメージ



里山に抱かれたこもればいモールのイメージ